

Aさん

現地視察をする前までは、間伐材の伐採は人力で行う為にコストが高く採算が合わなくて放置されている民有林、国有林も多いのではと思っていました。今回の視察ではじめて高性能機械による間伐材の伐倒、枝払・玉切、集積の一連の作業を身近に見て、機械化が進んでいて低コストで出来る理由が良く分かりました。私は土木技術者として全国各地の高速道路や橋梁の仕事に従事していましたので、特に作業道路をどのように施工するのか興味が有りました。7200mもの作業道路を施工するには、測量及び設計図面作成に多額の金額がかかるのではと思っていましたが、詳細な図面は必要なく、重機オペレーターが現場合わせで施工すると聞いて、低コストで出来る理由が

理解出来ました。間伐材を利用してしている那珂川工場の見学では、建築資材の製造、バイオマス発電、排熱を利用してマンゴー育成などの一連の作業が良く理解出来ました。実際に視察する事で理解できた事も多かったので、今後も多くの人達に見学の機会を与えて頂く事を期待したいと思います。

Bさん

日常見ることができない場所へ連れて行って頂き、林業の現場を見学させていただき感動しました。どのように杉や桧を伐採し、作業をする行程を知ることができ、より一層林業が身近になりました。三浦しんさんの本「神去なあなあ日常」で少し知名度を上げた林業ですが、国土の役7割を占める森林の重要性を知らしめるためにも、今後さ

らにこうしたモニターツアーが大切になるのではないかと感じられた一日でした。本当に有難うございました。

Cさん

とても興味深い見学を有難うございました。木材をすべて使いつくすという考えの企業を見学させて頂き、これからの日本の林業のすばらしい可能性を感じました。「祖先が植えてくれた木々もお金にならない」と知人から聞いたので、上記の話はうれしく感じました。木々を使う「バイオマス」発電をして、養殖や温室を利用しての産業も嬉しい話題でした。木造でも3階建てができるようになったのですから、これからは国産材を使ってもらえるようにするには価格でしょうか？ストーブの燃料に「マキ」を使うという人も

増えているようです。電車や新幹線も木材もしくは木目調が内装に使ってあるとホッとします。(今までさまざまな理由で手入りがされていなかった山林を国の財産としてもっと大切に出来るようにそういう補助金はもっと多くあってもよいのではと思います。)(原発事故で使用できない「灰」も早く使える日を願っています。)ブナ林などに行くとなぜかほっとします。木々の持つ何かのおかげだと思います。多くの人に木々の大切さ森林の有意義さを知らせて下さい。「割りばし」を使うことが悪いことのように言われていますが「木材を有意義に使いきる」ということではないと思うのですが。発電を利用するウナギやマンガ、食べてみたいです。映画やテレビ番組で森林の大切さや国産材の家の良さやまきストー

ブの良さを知らせて下さい。(私は国産の木のスプーンを使っています。軽くて持ちやすい形です。) いろいろな木々の可能性、重要性を感じることできたモニター会議の見学でした。ありがとうございました。

Dさん

今回のモニター会議は国有林についてでしたが、日本全体で見ると国有林が3割、民有林が約7割となっているのを知って、民有林についても運営していく方法が必要なのではないかと思いました。林野庁の職員も昔に比べてかなり削減されたということでしたから、国有林の管理だけでも大変なのだろうと推察されます。しかし森林という意味では、国有でも民有でもかわらないのではないかと思えます。両者を含めた方策を、林野庁に

は出してもらいたいと思いましたが、その際に考えなければならぬのは、やはり採算性でしょうか。木を切るには近くに道がなければなりません。現状では道の近くでしか伐採できないと言われています。道の近くでない木も切り出して、採算をとることができるような方策がないものか検討していただきたいと思いました。

Eさん

モニター会議の中で、国有林でのプロセッサーによる造材の実演や協同組合那珂川工場の現場を見学させてもらい、新たな取組を行っていることが分かり、日本の林産業、地域活性化に期待がもてるのではないかと思えました。このような林産業の振興が計られれば森林の施業も行われ健全な森林の確保に繋がっ

て行くと思えます。それぞれの現場で説明をして頂き、そこで直接働いている人からも話を聞くことができ、私達の質問にも分かりやすく応えて下さいました。林業の現場や工場では若い人が働いていることに、林産業は斜陽産業ではなく、夢の持てる「未来産業なんだ」と気づきました。工場では製材用材や建築材以外で今まで捨てていた木質系を利用する方法、事業を見学できました。これからは高品質の製品づくりや木材の利用方法がさらに拡大され、各地域で特色を出しながら広まっていくのではないかと思いました。それには関係者の知恵や努力は勿論ですが、それと森林、林産業に対する国民の理解、協力が重要と考えます。かつては、日本は森林文化と呼ぶにふさわしい土壌でありました。今日、日本

人の多くは都市生活をしていて、森林との関係には希薄な生活をしています。森林と直接関係を持たなくても生活できると思っている人が多いと思います。そんなこともあり森林を守るには「そのままにして置いた方が良い。」「勝手に木は成長してくれる。」と誤解している人もいます。でも、私が参加している自然観察会などで説明すると森林の役割や森林の整備、保全の大切さを理解してくれます。つまり、国民に対する働きかけが必要で、なぜ私は国民の理解を強調するのかと言うと、これからは有効的な森林政策や環境政策を広範囲に実現させなければなりません。その一つに予算が必要になってきます。森林を健全に持続可能なものにしていくためには森林から多様な恩恵を受けている私たち国民や企業がその

議で多少急ぎ足だったと思う。

費用を負担する状況に來ているのではないかと思つています。負担、協力してもらうには、森林環境教育、国民の森林づくり、広報活動、イベントなどを通じて国民に「森林や林産業を理解してもらおう環境づくり」の普及が大切であると考えます。フォレストサポーターズの国民運動はとても良い取り組みをしているのですが、あまり知られていないようです。順次広まってくることを期待しています。今回二か所の現場を見学させてもらったのですが、それだけでも森林、林産業にたいして新たな認識をしたところではあります。ありがとうございます。

Fさん

会議については、もう少し時間があるとより建設的な意見がでたと思うが、一時間内での論